

**【栄区】令和7年第3回区づくり推進横浜市会議員会議
議事録**

開催日時	令和7年9月5日（金） 午前10時30分～午前11時30分
場 所	栄区役所新館4階8・9号会議室
出席者	<p>【座長】長谷川えつこ議員</p> <p>【議員：2名】大桑正貴議員、輿石かつ子議員</p> <p>【栄区：28名】松永朋美区長、米山岳夫副区長、 雨堤崇福祉保健センター長、 大野豊福祉保健センター担当部長、 丸山知明栄土木事務所長 ほか関係職員</p>
議題	<p>(1) 令和6年度個性ある区づくり推進費決算について</p> <p>(2) 令和7年度個性ある区づくり推進費執行状況について</p> <p>(3) 令和8年度栄区予算編成の考え方（案）について</p>
発言の要旨	<p>(説明省略)</p> <p>大桑議員：11ページの自治会町内会のデジタル化支援について、まず14団体21人が勉強した結果、実際に今年度に会議をデジタルでやっているなどの実績はあるのか。また、デジタル化と併せて14ページの高齢者のICTの活用支援に関する、スマートフォンやSNSというテーマに繋げて、恐らく警察の協力も必要になると思われるが、特殊詐欺が急激に増えている状況を受けて、警察と協力して啓発をしているなどの取組みがあるかどうか、その2点を聞きたい。</p> <p>谷川地域振興課長：自治会町内会のデジタル化の研修だが、研修を受けた後にLINE WORKSなどを使って会議の資料を共有することを始めた自治会があると聞いている。初めて実施する講座だったが、そういうデジタルツールを使っていただくきっかけづくりになったと思っている。市民局で行っている同様の支援と併せてこれからも支援したいと思う。</p> <p>小嶋高齢・障害支援課長：警察等々との特殊詐欺でのPRについては、まず、ICT利活用事業の中では、一般的な話としてお伝えしている。また、ICT利活用事業とは異なるが、栄区は様々な集いの場がとても多いので、そういうところでお伝えしたり、特殊詐欺</p>

に注意するというようなテーマでケアプラザ等が主体になって講座を開くなどの啓発は進めている。

大桑議員：自分事として受け止めにくいが、実際に1件で数千万といった事案が栄区でも出ているため、引き続きお願ひしたい。

続けて、19ページのGREEN×EXP02027プロモーションによるさかえの魅力向上事業の中で、公園愛護会向けに講座を開いているということだが、講座を開いて実際に花壇を整備していくという趣旨なのか。同事業は7年度もやっていると思うが、毎年ある程度の回数の講座を開催しながら各地域に花を植えていくという活動なのか、それらは継続的にやっているのかを教えていただきたい。また、20ページの地域の賑わい創出事業の（2）本郷台駅前広場活性化事業に関連して、イベントをするときに使用する椅子や机が老朽化しているという声を利用者から聞く。買い換えや修繕ができれば、使っている方の快適性や安全性も高まると思う。一斉に買い換えるのはなかなか難しいと思うが、工夫してできることを検討していただきたい。その2点お願ひしたい。

加藤栄土木事務所副所長：1点目の花壇支援事業については、愛護会などから高齢化に合わせて維持管理しやすく恒久的な花壇の整備が求められており、区内の造園業者にご協力いただいて手入れ講座を実施している。昨年度は2回開催し、維持管理しやすい、そして恒久的な花壇の整備をしていくことをねらいに、実際に活動していただく愛護会などに向けて支援を行った。各団体に対して講座を1回以上受講していただけるようにお声がけし、参加していただいた。

大桑議員：栄区役所に集まって行うのか、どこかの町内会などに訪問して実際に現地で行うのか、また、そのときに花の種なども配るのか。要するに、愛護会のメンバーも含め、自主的に花壇の整備に関わっている人にとって、花植えを継続的に続けていくことには資金的な負担もあると思うため、そうした方への支援はどうなっているのか把握したい。

加藤栄土木事務所副所長：実施箇所は実際の現場。昨年は水辺愛護会に対して、いたち川天神橋付近で実施した。もう一つは、ハマロードサポーターの活動団体に対して活動箇所で講座を開催した。

谷川地域振興課長：駅前広場の物品について、年々イベントの数が増えて

いる中で、利用者に使っていただく物品が老朽化しているということで、6年度の予算の中でも、舞台の上の天板を全部張り替えるなどの対応をした。そのほか、机や椅子も老朽化しているので、利用者の声をお聞きしながら対応していきたい。

大桑議員：22ページ（2）のドローン操縦士養成の取組みは、実際どれぐらいの成果があったのか。実際に講座を受けて操縦できるようになったのか、それともまだ訓練中なのか。

金子総務課長：ドローンの研修については、毎年4名ずつ研修に参加している。ただ、異動してしまう職員もいるので、毎年操縦できる職員が増えるよう研修に取り組んでいる。

輿石議員：一般論になるが、今回の6年度決算のように残金が出たときの対応はどうなるのか。

金子総務課長：今回の決算については、トータルでは約520万円の不用額が発生した形になるが、自主企画事業については約120万円の不用額となっている。区役所内で早い段階でどのくらい余るのかを精査しながら、有効に活用するよう検討している。結果として、約520万円の残となっているが、できるだけ執行しようとしている。

輿石議員：できるだけ執行しようとした結果、約520万円の残ということか。

田中区政推進課長：残金については、決算処理の中で半分は基金に積み立て、半分は翌年度に繰越しという処理をされている。

輿石議員：翌年度への繰越しは栄区で使える財源になるのか。

田中区政推進課長：市全体の中で処理されるので、区の予算からは切り離される。

輿石議員：逆に足りないという場合もあるのか。

金子総務課長：足りないという状況が発生しないよう、なおかつ予算を有効活用できるように、早い段階から確認・調整しながら決算に向けて取り組んでいる。

輿石議員：特に、区庁舎・区民利用施設管理費の不用額が多いが、例えば区役所の駐車場の脇の夜間出入口を出たところに新しくウッドデッキをつくったが、あれは区づくり推進費でつくったのか。

金子総務課長：そのとおり。

輿石議員：あれがきていいなという声があるが、車椅子の人は利用する

ことができない。もう一工夫して、例えば車椅子があそこに横づけできて、押してきた人がベンチに座って同じ目線で座って憩える場所にするような設計も可能だったのでは。そういうたプラスアルファの工夫をすると残金も発生せず、より栄区らしい憩いのスポットができたのではないかと思う。バリアフリーの視点や栄区らしさを反映させることは難しいのか。

松永区長：確かに段差は低いとはいえ、車椅子の方が中心部に近づけない構造になっており、残念に思う声もあることはご指摘として受け止めたい。区役所の予算は、2月末ぎりぎりまで精査しているが、最終的に指定管理料の精算などによって残金が出てきてしまう。区としては最大限有効に使えるように尽力した。今年度の予算についても、ご指摘を踏まえて考えていきたい。

輿石議員：議員団も含めて柔軟な話し合いができるような場を持てるといいと思う。

また、よこはまウォーキングポイントに関して、リーダーの設置場所が区内で減っているという声を聞いたが、6年度の実施状況はどうか。

栗竹福祉保健課長：健康福祉局の事業として、記録するオムロン社製の機械を配布しているが、現在は順次、スマートフォンのアプリに移行している。ただ、スマートフォンの活用が難しいという方、高齢者の方もいらっしゃるため、局も慎重にスケジュールを検討している状況で、どのようにそのスケジュールを示していくかという方向性がまだ区には共有されていない。

輿石議員：それであれば、14ページの高齢者のＩＣＴ利活用支援事業のスマホ教室で身近なテーマとして取り上げるといいと思う。

新たな担い手応援事業の名人育成講座について、タウンニュースも協力的に検証してくれていて、LINE グループを立ち上げた事例が載っていた。そういうたほかの地域の先行事例の横連携のような取組みは6年度中に行ったのか。

田中区政推進課長：タウンニュースにも掲載されていたとおり、うまく受講者と地域の方々がつながって、地域のお祭りをお手伝いしたり委嘱委員になったりといった流れができている地区と、なかなかうまくないまま、地域になかなか入れない状況が続いている地区がある。区としても、こうした好事例を取材して広報誌に

掲載するなど、横展開できるように取り組んでいきたい。

輿石議員：よろしくお願ひしたい。

10 ページのスポーツ安全対策事業について、前年度はセーフコミュニティの事業だったとの記載がある。セーフコミュニティについては、WHOからの認証という点では一旦区切りがついたと思うが、過去に実際に栄区が大きく取り組んだことなので、レガシーとして随所に残していくといいと思う。あまり目立ってはないが、過去の取組み内容をセーフコミュニティに関連付けた形で打ち出していくことも行うべき。

松永区長：予算の事業名としてセーフコミュニティと出ているのは、ここ部分だけだが、例えば子供の安全のKYTの取組など、セーフコミュニティのときに取り組んで現在も続いているものはいろいろある。こうした取組みを、今の時流に合わせながら少しづつ見直すことはあると思うが、セーフコミュニティの骨子は大事にしていきたいと考えている。

輿石議員：もともと区の取組をセーフコミュニティの認証に繋げたものであって、セーフコミュニティがスタートではないとはいえ、予算をかけて取り組んだ事業なので、見える化して、キーワードとして残していくということが区民の心の支えにもなると思う。

ハマロードサポーターだが、企業が撤退することに伴って急激に減る地域が出ると思う。7年度当初予算を組んだ時点ではこうした事例はなかったと思うが、ハマロードサポーターの決算を踏まえてどのように考えているか。

加藤栄土木事務所副所長：ご指摘のとおり、高齢化等で活動団体が減ったり、企業の活動が難しくなっている地域が出てきている。7年度予算としては、ハマロードサポーターが継続して活動できるよう、さらに啓発活動を行ってハマロードサポーターが増えていくことを期待して取り組みたい。

輿石議員：6年、7年で減少しており、8年度を見越して取り組んでいかないと増え減ってしまう懸念があるので、よろしくお願ひしたい。

大桑議員：43 ページの区制40周年記念事業について、③番のオープニングに関して内容を聞きたい。

金子総務課長：40周年記念事業については、直近では7月に役員会を開催

した。今度9月に実行委員会を開催する。9月の実行委員会では事業計画書の案を示して全体像が見える形での説明をする予定。今まで基本方針やキャッチフレーズ、事業期間について説明をしてきたが、事業の全体像としては、プロモーション事業、記念イベント、それから式典、記録の作成を実施していく予定で、これらの詳細を説明する。

大桑議員：オープニングセレモニーは、次の1月ということか。

金子総務課長：そのとおり。

大桑議員：いろいろ改めて教えていただきたい。

41ページの愛護会に向けた区内施設の花壇整備支援事業や、GREEN×EXPO2027に向けての取組みは、ぜひ地域の方とうまく調整して、一過性のもので終わらないように、ぜひ継続的に活動できるように支援してほしい。

最後に、46ページのフードドライブの取組みについて、タウンニュースでも記事があったように、ファミリーマートと連携してフードドライブで寄附してもらうということだが、ファミリーマートとは何かきっかけがあったのか、それとも、今後も他のチェーンも含めて広く展開していくのか。また、ほかの区でも同様にファミリーマートと連携しているところがあるのか、栄区独自なのかお聞きしたい。すぐに分からなければ後日でも構わない。

田中資源課推進担当課長：詳細は改めて報告させていただくが、ほかの区でも連携しているところはあると聞いています。ファミリーマートと連携したいきさつについても、改めて確認した後に伝える。

輿石議員：45ページの地域防災拠点支援事業で、アドバイザー派遣を新規に取り上げているが、やはりコロナ禍以降、なかなか訓練を実施できずにいたため、拠点の立ち上げ訓練については手厚くサポートしないと厳しい拠点が出てくると思う。この7月から全20拠点でアドバイザー派遣ということだが、具体的には防災士を呼んだりするのか、横浜市でも協定を結んでいるNPO、かながわ311ネットワークなどがあるが、そういうところと協力するのか、どのような形で進めていくのか。

金子総務課長：アドバイザー派遣委託については、今年度からの新規事業で、進め方としては、まず20拠点の皆さんを対象に集まっていた全般的な研修を、かながわ311ネットワークに協力しても

らい実施している。その後、ご指摘のように栄区でも20拠点で取組み状況の差があり、短期間で委員長や委員が替わってしまう拠点もあるので、今回はそういった拠点を対象にアドバイザーを派遣し、訓練実施に近づいてもらう狙いで取り組んでいる。現在、個別にアドバイザーを派遣しているのは9拠点で、9月以降の訓練のサポートをしていきたいと考えて進めている。

輿石議員：例えば無線に強い拠点とか、ペットに強い拠点とか、トイレに強い拠点とか、それぞれ個性がある。成功例を横展開して相乗効果を目指していくうえで、区役所だけでは難しいポイントをNPOなどと協力して進めてほしい。防災の対策は速やかに取り組む必要があると思っている。

フードパントリーについて、社会福祉協議会が一旦休止しているが、フードドライブで集まったものの配布の仕方など、フードパントリー中止の事情をヒアリングして区役所としてできることを探すべきと思うが、どうか。

田中資源課推進担当課長：なるべく区民の皆様に寄附していただけるような受付窓口などを増やしていきたいと考えている。社会福祉協議会がフードパントリーを休止している状況なので、何か区できることを探していきたい。

輿石議員：中止の理由は様々あると思う。何か課題があつて一旦休止という判断になったと思うので、一緒に検証し、再開するのか、代替の取組みを行うのか、フードドライブで集めた物の再分配の適正な方法を検討していただきたい。

栗竹福祉保健課長：社会福祉協議会で行っていたフードパントリーは、今年の夏で9回目を数え、とても助けていただいたという声がある。一方で、もうただけで終わってしまうという、その後の自立に結びついているのかという課題もあり、ご指摘のような検証も踏まえつつ、社会福祉協議会とともに考えていきたい。

輿石議員：よろしくお願いしたい。

また、最近空き家がさらに目立ってきており、樹木が電線にかかってしまっているところもたくさんあり、ごみ屋敷も問題が深化している。居場所がなくて駅前にいるような方など、治安を含めた課題が市民の目に見えるような形で出てきているが、改めて栄区役所として、空き家対策の視点を聞きたい。

	<p>田中区政推進課長：空き家の問題が増えてきていることは、問合せの数などを通じて区役所としても日々感じているところ。区役所としては、市全体でも行っていることだが、先駆けて空き家対策セミナーを実施して、元気なうちに少しづつ自分の今住んでいる家のことを考えていただくよう取り組んできた。ただ、参加人数が限られているので、もっと皆さんに興味を持っていただけるような切り口や、空き家を出さないためにできることといった切り口で新しく取り組んでいくことを検討している。</p> <p>輿石議員：予防策と対策と両輪でお願いしたい。</p> <p>栗竹福祉保健課長：ごみ屋敷に関して、区内にも長年にわたる懸案の事案が依然として残っている。これまで区役所各部署が連携しながら当事者にアプローチしてきた。そうした中でも、この夏は自分で木を切ったりするような動きが出てきたりしているが、やはりいざ搬出となると、ご本人あるいはご家族の間でうまく話がつかず、時間がかかってしまっている状況がある。引き続き継続的に福祉的なアプローチとともに、ごみ出しルール上のアプローチと双方混ぜながら、区役所全体、関係部署全体で取り組んでいきたい。</p> <p>松永区長：なお、フードドライブについて、職員が、フードドライブの場所を拡大したいと色々探した結果、ファミリーマートについては、市内でも事例があり働きかけた。</p> <p>また、これだけにとどまらず、これからも拡大していきたいと考えており、今現在も色々な事業者との提携について働きかけているので、また報告させていただく。</p> <p>会議報告書の作成については座長一任。了承</p>
備 考	